

まちなかは長岡の表玄関

旧藩以来のまちづくりの伝統

新しい市役所のかたち



長岡まつりなどで長岡を初めて訪れる人が長岡駅を降りてまず目にするところ、それが大手通り界隈であり、長岡市の中心市街地「まちなか」です。

「中心市街地にまちの活気を取り戻したい」「こんなまちなかなら行ってみたい」「市役所機能の移転と活性化って関係あるの?」。新長岡市のまちの真ん中、「新しいまちなか」に期待する市民三人が、「長岡のまちづくりの精神」をキーワードに掲げる豊口協さん(長岡造形大学理事長)と語りあいました。「十地域の視点で」「まちなか全体を物産展のような空間に」「市民目線のまちづくりを」など、新しいまちなかへの、期待と夢が大きく広がりました。

長岡造形大学
理事長 豊口協さん



平成13年、ながおか市民センター開設のための市民委員会の委員長を務める。18年には行政機能再配置検討市民委員会会長を務める。長岡造形大学の開学のため、長岡に居を構えて13年。お世話になった大勢の長岡の人たちに恩返しをしたいと語る。

十市町村が一緒になったこの視点からまちなかを考える
——まちなか(大手通り)への思いやイメージは。
(豊口) 旧長岡市で大手通りをどうするかという議論は前からあったんです。しかし、十市町村が一緒になったわけです。栃尾から、寺泊から見た大手通りはどうなのか。十九万人から二十八万人に広がったという別の視点から考えないと、まちなかの意味がぼやけてしまうことになります。

ないかと思いますが…。
(豊口) 市民センターをつくる際に運営委員長をしていましたが、そのときに「腕組みして用があるなら来いよ」という市役所ではだめですよ」と言いました。横浜市役所は駅から二百歩、鎌倉市役所も二百五十歩です。市役所は市民と同じ生活範囲の中にいなきゃいけない。だから、昔市役所が大手通りにあったと聞いて、ぜひ機能をこっちに持つてくるべきだと。そのような観点で市民センターのあり方

中心市街地の明日を語る 「まちなか」はまちの真ん中!

新しいまちなかに期待する3人



大原邦夫さん (長岡地域)
自営業の傍ら、1月に長岡青年会議所まちづくり委員会の委員長に就任予定。市民を巻き込んだソフト事業を展開したいと意気込む。趣味はテニスで、2児の父。



諸橋文男さん (栃尾地域)
町内の副区長を務める。18年度の市政モニター。市の玄関となる大手通りの活性化が必要と考える。趣味は登山で、孫の子守りが生きがいの一つ。



中川真由美さん (与板地域)
調理・介護職員として働く。18年度の市政モニターとして活躍。昔のように休日になげわう駅前周辺になればと願う。趣味は読書で、3児の母。

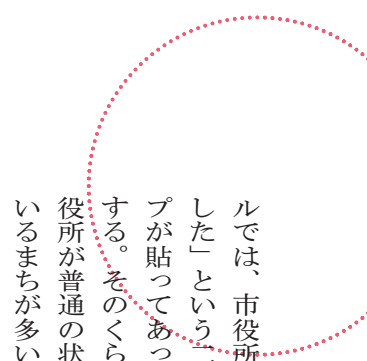
「市民目線のまちづくり」実は旧藩時代からの長岡の伝統
——今の市役所は入りにくいとのことですが、これからの市役所には、どういう形が望ましいと思われませんか。
(豊口) 日本のお役所の特徴は権威主義。だから一つの建物をドーンと建てるんです。例えば、アメリカは移民の集

んですね。外からでも中で何をやっているかわかる。市役所もガラス張りにするぐらいの風通しを良くしていく必要があるのではないのでしょうか。今市役所は用がないと話ができない感じでしょう。用件だけ言って、後から職員が何を言うかを考えながら、青い顔して帰ってくる。空気が硬いですね(笑)。





と元気が出ると思いきや、中心とした範囲すべてが市役



ルでは、市役所に「結婚しました」という二人のピンナップが貼ってあって市民にPRする。そのくらいに市民と市役所が普通の状態では息を合せているまちが多いんですね。

(諸橋) そうですね。若い人がデートの待ち合わせに使えそうな温かみのある市役所になればいいと思います。(豊口) 市民が、市役所は自分たちの生活と直結しているという意識を持たないといけないんです。

実は、私が長岡に来て感動したことがあります。長岡城が平城だったこと。これは、殿様の目も、侍の目も、町人も全部同じ目の高さでまちを見ていたわけです。このまちをどうしようかと考えている。歴史を調べると城の中に町民が自由に入れた。城が軍事上の拠点だったことを考えると当時としては画期的なことだと思えます。この伝統を長岡のまちづくりに生かしていくべきだろうと。ほかにはないまったく新しいまちが生まれると考えます。だから

ヤッターを閉めるんです。そこでお願いしたことが「ウインドーだけは空けておいて」と。中華街で食事をすのお客は夜来ます。その人が必ず元町を通って帰るようなルートを作りました。ショッピングはできないけど、ウインドーショッピングはできるように。すると、明日来ようか、来週来ようかという話になる。「用がなくても歩き回れる」大手通りに、そんな魅力があればいいですね。



(諸橋) 長岡の「顔」である大手通りが元気になれば、周りの寺泊や山古志も元気が出てくる。お母さんが朝起きて寝ぼけた顔でいれば子どもも元気が出ない。お母さんが元気に「いつてらっしゃい」と言えば子どもも元気に「行ってきます」と。それと同じだと思っんです。市役所機能が大手通りに分散すればいいですね。「大手通りを

ら、市役所の職員も一緒に生活を。例えば、昼食をレストランで食べる時にたまにたま知ってる人に会って、話

広場を含むまちなか全体がぶらぶら歩いて楽しい場所に

——古くなった厚生会館の建て替えにあわせて、市民のだけれども気軽に集まれる広場や「公会堂」、そして市役所が一体となった施設を整備する様



所なんだ。だから私も市役所の一員なんだ」となれば自然と行政に関心が出てくる。商店街の人たちもそれを利用してがんばってほしいですね。(大原) 私も商売をやっていますので「元気を出す」ことがキーワードだと思います。市役所の移転とか、中心市街地の構造改革とかをきっかけにして、少しずつ商店も変わり、まちを活性化していきたいですね。(豊口) それには、五年後十年後にどうしたいのかという夢がないと難しい。市民が誇りの持てるまちを作っていく

をしてる間にいろんな情報交換をする。コミュニケーションの中心地として大手通りが生まれ変わればいいですね。

討が進められていますが…。(諸橋) 長岡は雪や雨が多用できません。だから郊外の大形店に行つて子どもを遊ばせるしかない。屋根付き広場なら年中、子どもが遊べるし、家族で来て遊んでもらえる。合併したわけだから、例えば寺泊の新鮮な魚、栃尾の揚げたてのあぶらげ、山古志や小国の採れたて野菜を売るとか、長岡のおいしいコシヒカリを釜で炊いて売るとか。広場を含むまちなか全体が物産展のよな空間になればいいですね。市内なら遠くても1時間以内だし、帰りには大手通りをぶらぶらして帰れる。(中川) ついつい駐車場がある郊外の店に行つてしまいますね(笑)。

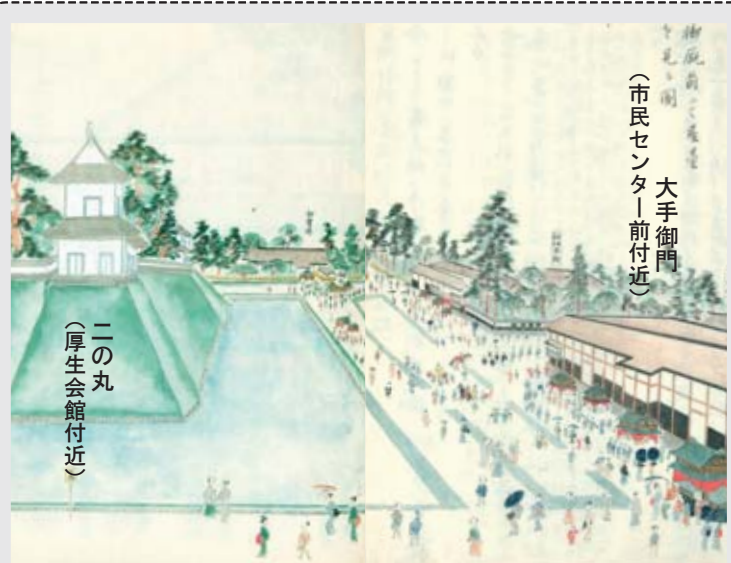
必要があるんですね。「誇りの持てる」とは何か。それは、長岡の城が平城で、市民と一体でまちづくりをしてきた伝統を、現代によみがえらせるということ。もう一つは、日本のほ

まちなかには気楽に行きたい。まちの良さを子どもたちに残したい

最後に、十年後二十年後、長岡にどういうまちであってほしいですか。

(中川) 駅前にいきたい、行くのが楽しみ、いろんなお得な情報を得られるというまちなかになればいいですね。(諸橋) 気楽に来られる長岡市になってほしい。行政と市民と商店街が一体となったまちづくりができればいいですね。私もまちづくりのお手伝いできればと思います。(大原) 子どもたちに良いものを残せるまちにしたい。そして、夢をやるのが大切。青年会議所のまちづくり委員会でもいろんなアイデアを出

長岡城内には庶民も入れた!? 江戸時代、毎年旧暦六月十五日の蔵王社大祭で城下の十八の町が、それぞれ屋台を引いて城内に入り、大勢の見物人のにぎわいました。城という軍事上の拠点を開放し、侍も庶民も分け隔てなく城の中でまつりを楽しむ。これは、全国的にもあまり例がないといわれています。



▲元長岡藩士・小川当知による「御殿前にて屋台を見る図」。先頭を行く神馬の行列の槍持は黒津村の農民が務めていました。絵中央に描かれており、大手御門から出るところです。

でもホコ天のような楽しいイベントがあれば、駐車料金を払ってでも行きますよ。(豊口) 私は以前、横浜市の元町通りのまちづくりをお手伝いしましたが、元町の人たちは夜商売ができないからシ

かのまちなかにはなかった新しいまちづくりをすることです。例えば「ヘリコプターによる救急医療システム」。山古志、寺泊、栃尾から総合病院まで、五分で病人を運べる。そうしたあらゆる市民サービスの拠点としての情報センターの開設などが考えられます。



同じ目線でものを見る。情報が流れている。それをしっかりとつかむ。そして自分たちの問題として解決していこうという意識を市民が持つ。そういうまちなかになってほしいですね。

厚生会館地区をはじめとする中心市街地への市役所機能の移転について、ご意見をお寄せください。関係資料は、市のホームページほか、市役所1階市民情報ラウンジ、市民センター、各支所地域振興課で閲覧できます。ご意見は〒940-8501(住所記入不要) 長岡市行政管理課 ☎ 2208、FAX 39・2272、Eメール gyoutkan@city.nagaoka.lg.jp (住所、氏名を明記)